

第2号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）
事業計画（変更計画）書

平成26年4月16日

一部修正 平成26年5月30日

1 実施主体

(1) NPO法人等が申請する場合

NPO法人等 (実施主体)	種別及び名称	特定非営利活動法人 川内村NPO協働センター		
	住所	〒979-1201 福島県双葉郡川内村大字上川内字町分 211		
NPO法人等 (連携先)	種別及び名称	川内村観光協会	担当者名	井出 茂
	住所	〒979-1201 福島県双葉郡川内村大字上川内字早渡 11-24	電話番号	0240-38-2346
NPO法人等 (連携先)	種別及び名称	一般社団法人 MMIX Lab	担当者名	村上 タカシ
	住所	〒980-0021 仙台市青葉区中央 2-10-1 勝山ビルディング 6F	電話番号	070-6970-1976

(2) 協議体が申請する場合



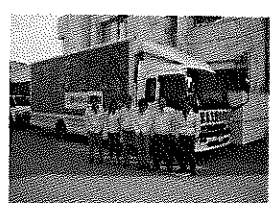
協議体の名称				
代表構成員の団体名 及び代表者職氏名				
構 成 団 体	都道府県・市区町 村名及び部課名		事業における 役割	
	民間非営利組 織の種別・名称		事業における 役割	
住所				電話番号

2 事業概要

事業名	かわうちアート・インクルージョン事業
総事業費	2,562,000円（うち希望補助金額 2,049,000円）
事業の実施期間	平成26年 6月 1日から平成26年12月20日まで

注：補助対象期間は補助金の交付決定日からとなります。

3 事業計画

<p>地域における課題と事業の目的</p>	<p>川内村では、2011年3月11日に発生した東日本大震災及び東京電力福島第1原子力発電所事故により村民が避難を余儀なくされ、その後、2012年1月31日に村長が帰村宣言した。2012年4月1日から行政機能を川内村役場にて本格的に再開し村民の帰村を待つこととし、村民が帰村するために抱えている不安要件（放射線量、就業、インフラ、住宅等）の解消に不十分な面もあり帰村者の人数が少ない状況（約半数）である。また、企業誘致、交流・定住人口増のため、村営アパート、村営ビジネスホテルかわうちが建設され事業が開始されている。</p> <p>しかしながら、ビジネスホテルの壁面が殺風景であり、リニューアルが望まれている。また、観光資源の開発には外部有識者の協力も得ながら検討を重ねてきた。</p> <p>そこで、ビジネスホテルの壁面を大きなキャンパスと見立て、アーティスト、川内村の子どもたちが参加して、大きな絵を描く平面作品製作。芸術系大学の大学祭で使用したモニュメント（みこし、立体作品）も展示し、収穫祭を兼ねた完成イベントを開催し、川内村をアートで包み、持続的で新たな観光資源とする。</p> <p>外部からの協力も加えた「地元資源を活用した地元一ボランティアとの連携」事業として実施することにより、行政サービスの補完、村民の帰村促進を図り、「川内村はたのしいね」を目指すことで、川内村の農業、商業の振興に寄与する。</p> <p>さらに、事業を通じて高い運営力を有するNPO法人となり、福島県の復興支援の促進を通して、福島県のきずなの維持・再生を図ることを目的とする。</p>
<p>事業の目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) ビジネスホテルの壁面に絵を描く（延 150 名参加） 2) 立体作品を展示する（解体、移送、組立、補修等 延 50 名参加） 3) 完成イベントを開催する（100 名参加）
<p>事業内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) ビジネスホテルの壁面に絵を描く（実施時期：8月、実施場所：ビジネスホテルかわうち、参集範囲：アーティスト、芸術系大学生及び川内村の子どもたち、参加予定人数：延 150 名、協力：宮城教育大学、福島大学、東京芸術大学） 2) 大学祭終了後、譲渡を受けた立体作品を解体、移送、組立、補修して展示する（実施時期：11月、実施場所：川内村内、参集範囲：アーティストおよび芸術系大学生、参加予定人数：延 50 名） 3) 平面作品、立体作品、音楽、和太鼓、ワークショップ等を交えた完成イベントを開催する。ステージトラック「TSUBASA号（アーティスト・障がい者施設の子どもたちによる平面作品が描かれている）」でNPO法人国境なき楽団（代表庄野真代）による音楽ライブも開催（実施時期：11月、実施場所：川内村内、参集範囲：アーティスト、芸術系大学生、一般村民及び川内村の子どもたち、参加予定人数：100名） <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>仙台仮設住宅壁面絵画</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>立体作品（芸祭みこし）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>緊急輸送中の TSUBASA 号</p> </div> </div>

見込 まれる 成果	1. 本県の復興支援・被災者支援の観点	<p>直接的な効果 川内村に新たな観光資源ができ、ビジネスホテルの稼働率が上がり、交流人口が増加する。</p> <p>波及効果 川内村に、芸術村（仮称ケロケロアーティスト村）を設置する計画を進めており、本事業がその呼び水になる。</p>
	2. 取組実施主体の運営力強化の観点	<p>芸術系大学、アーティストとのネットワークが構築され、計画しているケロケロアーティスト村（絵画・彫刻・音楽・和太鼓・料理等の滞在型、製作・展示空間）設置の機運が高まる。</p>
事業スケジュール	事業実施内容	
平成26年7月	<p>会議体会議</p> <p>第1回会議体会議 (事業内容確認)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● NPO法人川内村NPO協働センター ● 川内村観光協会 ● 一般社団法人MMIX Lab ● 川内村
8月	<p>1) ビジネスホテルの壁面に絵を描く (6日間)</p>	<p>アーティスト、宮城教育大学、福島大学、東京芸術大学等の学生及び川内村の子どもたちが合宿をしながら作品を仕上げていく</p>
9月		
10月	<p>2) 立体作品を解体、移送、組立、補修して展示する (解体1日、組み立て・修復2日)</p>	<p>アートポンプ計画 平面作品：ビジネスホテル壁面、ステージトラック「TSUBASA号」 立体作品：大学祭終了後、譲渡を受けるモニュメント 音楽：ステージトラック「TSUBASA号」を活用したライブ（協力NPO法人国境なき楽団（代表庄野真代）） ワークショップ：協力一般社団法人MMIX Lab</p>
11月	<p>3) 完成イベント (1日)</p>	
12月	<p>第2回会議体会議 (総括、今後の事業計画検討)</p>	
1月	<p>事業報告</p> <p>事業評価、事業完了報告書の提出</p>	
事業実施体制	<p>特定非営利活動法人川内村NPO協働センター（代表理事 松尾道夫、実施主体） 川内村観光協会（会長 井出 茂、行政・関係機関との調整、助言、実施協力） 一般社団法人MMIX Lab（代表理事 村上タカシ、関係機関との調整、助言、専門家派遣、実施協力） 川内村（村長 遠藤雄幸、行政・関係機関との調整、助言、実施協力）</p>	

事業終了後の 展 開	<p>地域住民に対して普及啓発イベントを行う際に団体の会員募集を行うことで、参加者の5%を本会の会員獲得にむすびつける。</p> <p>実施体制における島見氏を本事業のプロジェクトリーダーと位置付け、企画運営能力、ファンドレイジング能力および渉外力を身につけ、助成期間終了後の活動の自立および持続発展につなげることにする。</p>
事業の先進 性・普及性	<p>大学、アーティスト等外部からの協力も加えた「地元資源を活用した地元一ボランティアとの連携事業である。</p> <p>復興支援、観光開発に芸術を取り入れ、新たなネットワークを構築する。</p>
特記事項	<p>一般社団法人 MMIX Lab 代表理事村上タカシ氏は宮城教育大学准教授で、アーティストでもある。3.11NPO+の代表として、東日本大震災緊急・復興支援活動を行っている。川内村復興、ケロケロアーティスト村について専門的知見を有し、本会と協働して活動している。</p>

第3号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）
収支予算書

申請者名 特定非営利活動法人 川内村NPO協働センター

【収入の部】

（単位：千円）

区 分	平成 26 年度 予 算 額	明 細
ふるさと・きずな維持・再生 支援事業補助金	2,049	
自己資金（負担者名）	513	
事業収入	0	
その他収入		
収入合計	2,562	

【支出の部】

（単位：千円）

区 分	平成 26 年度 予 算 額	明 細
人件費（共済費を含む）	462	事務局員 7,710 円×60 人日 = 462,600 円
報償費	946	専門家謝金（会議体会議）5 人×28,000 円×2 日 = 280,000 円 専門家謝金（壁画製作指導）2 人×28,000 円×6 日 = 336,000 円 専門家謝金（移送修復指導）1 人×28,000 円×3 日 = 84,000 円 メインアーティスト謝金（イベント）1 人×28,000 円 = 28,000 円 サブアーティスト謝金（イベント）8 人×20,000 円 = 160,000 円 ステージトラック運転手（1泊2日）1 人×9,300 円×2 日 = 18,600 円 音響・照明オペレータ 2 人×20,000 円 = 40,000 円
旅費	150	新幹線等交通費（川内村—東京）15,000 円×10 人日 = 150,000 円
需用費	190	
消耗品費	117	ペイント用品、消耗品等
燃料費	50	ガソリン代・高速代
印刷製本費	23	コピー代（白黒） 8 円×1,000 枚 = 8,000 円 コピー代（カラー）30 円×500 枚 = 15,000 円
役務費	34	

通信運搬費	24	案内郵送費 82 円×300 部=24,600 円
手数料	2	送金手数料等
保険料	8	1 年契約で N P O 総合保険に加入。案分負担
使用料及び賃借料	230	活動用車両レンタル 50,000 円 ステージトラック 50,000 円×2 日=100,000 円 発電機 2 台×5,000 円×2 日=20,000 円 音響機器 30,000 円×2 日=60,000 円
委託料	550	広報用チラシ 10 円×5,000 枚=50,000 円 立体作品移送 500,000 円
支出合計	2,562	

注1 用紙の大きさは、A列4番とすること。欄が足りない場合は、適宜追加してください。

注2 「明細」欄には各区分の積算内訳として、名称、数量、単価、金額を必ず明確に記載すること。なお、「明細」については別紙として添付しても差し支えない。仕様については別途資料を添付すること。

注3 行政による他の補助事業も併せて利用する場合は、各補助金の用途を明確に区分し、この資金計画には、ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金を使用する部分の収支のみ記載すること。他の補助事業にかかる収支についてはこの資金計画には計上せず、別様式にて収支予算書を添付すること。また、他の補助事業の内容が分かる補助金交付要綱、要領等、用途の区分が分かる資料を添付すること。